**【小学校・中学校・義務教育学校用】**

令和２年度学校評価 計画

| 達成度（評価） |
|---|
| Ａ：十分達成できている |
| Ｂ：おおむね達成できている |
| Ｃ：やや不十分である |
| Ｄ：不十分である |

| 学校名 | 小城市立小中一貫校芦刈観瀾校 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 1　前年度<br>評価結果の概要 | **○学校経営における重点目標である、学力向上、豊かな心の育成、基本的な生活習慣の確立と体力の向上、地域連携の推進については、目標を達成することができた。小中一貫教育の推進、生徒指導体制の確立、児童生徒の多様な体験時間の確保等について、小中間で達成状況の多小の違いは見られるがおおむね達成することができた。**<br>**●小中一貫教育を柱にした教育活動の再構築が必要である。具体的には、新学習指導要領の実施に伴い、カリキュラムや年間行事、業務改善について学校から保護者や地域に伝えていくことで協力を得ていく。** |
| 2　学校教育目標 | **ふるさとを愛し、未来を拓く、心身ともに元気な子どもの育成**<br>**～「ともに」「つなぐ」小中一貫教育～** |
| 3　本年度の重点目標 | **1　学力向上**<br>**2　豊かな心の育成**<br>**3　基本的生活習慣の確立と体力の向上**<br>**4　小中一貫教育の成果の確認**<br>**5　生徒指導体制の確立**<br>**6　保護者・地域連携の推進**<br>**7　多様な活動を促進するための教育活動や働き方の見直し** |

**4　重点取組内容・成果指標**　　**中間評価**　　**5　最終評価**

**（1）共通評価項目**

| 重点取組 | | | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評価項目 | 取組内容 | 成果指標<br>（数値目標） | | 進捗度<br>（評価） | 進捗状況と見通し | 達成度<br>（評価） | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| ●学力の向上 | ●全職員による共通理解と共通実践 | ●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 | ・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 | | ・ | | ・ | | ・ | 学びプロジェクト |
| | ○学習規律の確立・充実 | ○児童生徒アンケート「学習の決まりを守り、進んで学習に取り組んでいる」の達成率を、年度当初の数値より向上させる。 | ・学習規律（きまり）一覧表を児童生徒に配布・確認するとともに、教室に掲示し、職員全員が継続した指導を行う。 | | ・ | | ・ | | ・ | |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ●児童生徒の規範意識や思いやる心に関する質問への回答（規範意識や思いやる心をみる質問項目で「当てはまる」と回答した児童生徒の割合）を80%以上にする | ・1～9年生までの縦割り班活動を行い、「思いやりの心」「責任感」「人と関わる力」を育む。<br>・「あしかり学」の実践を通して、郷土の文化や伝統についての理解と愛着を深める。<br>・年間計画に沿った道徳教育の実践に取り組むとともに、教育活動における心の教育の充実を職員が意識する。<br>・月に1回『いじめゼロ宣言』の小中学部共同読み上げを実施する。 | | ・ | | ・ | | ・ | 生活プロジェクト |
| | ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 | ●「何かあった時に学校に相談しやすい」と感じる児童生徒の割合を80%以上にする<br>●「いじめに対し、組織的な対応を可能とするような体制整備ができている」と感じる職員の割合を90%以上にする | ・いじめ認知・覚知のためにアンケートを月に1回実施し、会議で気になる生徒の情報交換を行い、職員間での情報共有を行う。<br>・心の教室相談員やSSW、SCに児童生徒が相談しやすい環境を作り、教職員との情報共有を行う。<br>・アンケート内容を回覧し、管理職への報告および、担任だけではなく全職員で対応することを心がける | | ・ | | ・ | | ・ | |
| | ◎小学部・中学部の児童生徒がともに高め合い、進んで行動できる育成活動 | ○小学部のなかよしアンケート・中学部の生活アンケートでそれぞれ「あいさつ」や「そうじ」に関する項目を増やし、達成率を年度当初から向上させる。 | ・小中学部の児童生徒で行う「合同あいさつ運動」を実施する。<br>・小中学部を通した縦割り掃除を年3回実施する。<br>・昼休みの異学年交流を毎月1回実施し、感想や手紙を掲示する。 | | ・ | | ・ | | ・ | |
| ●健康・体つくり | ●運動習慣の改善や定着化 | ○児童生徒アンケート「進んで運動したり外遊びをしたりしている」の回答率を、年度当初より向上させる。 | ・学校生活における運動・外遊びに関するアンケートを年5回実施し、積極的な外遊びや自主的な運動を促す。<br>・児童生徒の体育委員会で、昼休みのイベント（運動や遊びに関する）を企画する。 | | ・ | | ・ | | ・ | 元気プロジェクト |
| | ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 | ○県の意識調査（5,8年生対象）を全学年で年2回実施し、「健康に食事は大事」と回答する児童生徒の割合を、1回目より2回目を向上させる。 | ・全学年において、年1回以上栄養教諭が参画した食育の授業を行い、食への意識の向上を図る。<br>・県の意識調査(5,8年必須)を全学年で年2回行い、1回目の結果をその後の指導に反映させる。<br>・「食育だより」や学校HP等を通して、食の大切さに関する情報を保護者や地域に発信する。 | | ・ | | ・ | | ・ | |
| | ○（学校独自重点取組・任意） | ○（学校独自成果指標・任意） | | | | | | | | |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 | ・小学部は毎週金曜日、中学部は毎週月曜日を定時退勤日に設定する。<br>・全職員が、自分の業務において効率化や削減ができる内容を設定する。<br>・校務分掌（プロジェクト）の取組の充実を通して、学校行事等を担当だけでなく、プロジェクト（チーム）として立案・準備・実行・振り返りを行う体制を整備する。 | | ・ | | ・ | | ・ | 管理職 |
| | ○（学校独自重点取組・任意）<br>部活動指導体制の効率化 | ○（学校独自成果指標・任意）<br>顧問への意識調査において「土日の指導体制の効率化が図られている」という回答率を70%以上にする。 | ・毎月の指導計画立案時に、確実に顧問団での話し合いを行う。<br>・異なる部活動の合同練習等、全校あげての協力体制を確立する。 | | ・ | | ・ | | ・ | |

**（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目**

| 重点取組 | | | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標<br>（数値目標） | | 進捗度<br>（評価） | 進捗状況と見通し | 達成度<br>（評価） | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| ○小中一貫教育推進体制の再構成 | ○校務分掌（プロジェクト部会）の活性化や校内研究の充実を中心とした、小中一貫教育推進体制の充実 | ○小中一貫教育研究発表会（11/20)における参加者アンケートで、「本校の小中一貫教育の充実が図られていると思う」の回答率を80%以上にする。 | ・各校務分掌（3つのプロジェクト）で、小中一貫教育に関する重点取組事項を設定し、全職員で共通理解を図る。<br>・各校務分掌の重点取組事項毎に成果指標を設定し、PDCAサイクルによる取組の改善を図る。<br>・小・中学部で全校授業研究会を1回ずつ実施し、小・中の全職員が一つの授業について意見を交流する機会を設定する。<br>・主要行事において児童生徒の意識調査を行い、事後の指導に生かす。 | | ・ | | ・ | | ・ | 管理職 |

**●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育**

| | |
|---|---|
| 5　総合評価・<br>次年度への展望 | ・<br>・<br>・ |